

日 時:2025年4月26日(土)10:00~11:40

場 所:オンライン開催

出席者:真部真里子会長、阿久澤さゆり筆頭副会長、高村仁知副会長、藤井恵子副会長、高山裕子、
大野智子、柳沢幸江、飯田文子、時友裕紀子、名倉秀子、山中なつみ、平島円、村上恵、安藤真美、
久保加織、杉山寿美、高橋啓子、田原美和、篠原久枝、長嶺清司、三神彩子、宮藤章(以上理事22名)
新井映子、平尾和子(以上監事2名)

欠席者:杉山久仁子、三宅裕子(以上理事2名)

本日の理事会は、定款第33条理事の過半数の出席(理事24名中出席22名、欠席2名)を満たし成立。

【配布資料】

資料1:一般社団法人日本調理科学会 2024年度 第4回理事会 議事録案

資料2:特別研究「多様な調理法と家庭料理の伝承」研究委員会報告

資料3:2024年度事業報告

資料4:2024年度貸借対照表

資料5:正味財産増減計算書

資料6:監査報告

資料7:2025年度学会賞受賞候補者案

資料8:2024年度支部事業報告

資料9:2024年度支部決算案

資料10:2025年度支部事業計画案

資料11:2025年度支部予算案

資料12:2025年度支部交付金計算書

資料13:2025年度代議員総会及び講演会について

資料14:支部代議員並びに理事候補者選出人数表(案)

資料15:ジュニア会員導入に伴う会員規程改正案

資料16:2025年度大会のご案内(学会誌58巻3号掲載記事)

資料17:2025年度大会予算案

資料18:本部招待者リスト

資料19:事業報告会及び学会賞授与式次第(案)

回収資料:新入会員(2025年1月25日~4月25日入会申込者)

1. 議長、議事録作成人、署名人選出

慣例に従い、議長は真部会長、議事録作成人は高橋啓子理事、議事録署名人は真部会長、阿久澤筆頭副会長、新井監事、平尾監事とする。

2. 前回議事録(案)確認

2024年度第4回理事会議事録(案)(資料1)を確認の上、了承した。万が一修正等ある場合は事務局早川氏へ連絡する。

3. 議事

【報告事項】

(1) 業務執行理事からの業務執行状況に関する報告の件

真部会長より、前回理事会以降の会長の職務を執行してきたとの報告があった。阿久澤筆頭副会長より会長補佐および庶務・企画・広報担当として、高村副会長より会長補佐および情報管理・会計担当として、藤井副会長より会長補佐および編集担当として職務を執行してきたことが報告された。

(2) 常置委員会からの報告の件

1) 編集委員会

藤井副会長より、資料3に基づき論文審査状況(令和6年4月1日~令和7年3月31日)について計39編の投稿があり、掲載済み7編、印刷待ち5編、取り下げ1編、却下9編、審査中17編となっていることが報告された。投稿数は、昨年度とほぼ同様である旨報告があった。

2) 情報管理委員会

高村副会長より、資料3に基づき、リニューアルされたホームページが間もなく公開できる状況であることが報告された。メール・ニュースの発行18回、転載許可の申請対応に関する報告があった。

(3) 特別委員会からの報告の件

1) 刊行委員会

香西委員長に代わり、真部会長より資料3に基づき、本学会は、創立40周年記念事業の一環として、建帛社よりクッカーサイエンスを刊行している。出版に関する相談窓口として学会誌58巻1号に刊行委員の連絡先を掲載したことが報告された。

2) 創立50周年記念出版委員会

真部会長より、資料3に基づき、「次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理」の成果について、農文協が運営するルール電子図書館への公開作業が完了したことが報告された。学会誌58巻3号でこの件に関する情報提供を行う予定であったが、現行作業の遅れにより4号掲載に変更させていただきたいとの説明があった。さらに、7月の入稿に向けて、ルール電子図書館を実際に使っている会員の先生方、何人かに簡単なコメントの協力依頼を行うことが報告された。

(4) 研究委員会からの報告の件

1) 災害時のメニュー開発に関する研究委員会

阿久澤筆頭副会長より、資料3に基づき、活動内容及び今後の予定について報告があった。第4回の理事会で報告したメニューの見直しが遅れているので、速やかに開始したいとのことであった。6月8日の講演会終了後にズームによる研究委員会を開催予定であるのでぜひ参加をしていただきたいとの依頼があった。

2025年度大会では、例年通り、NPO法人キャンパーによるデモ調理と活動研究委員会の活動報告を開催予定であることが報告された。詳細についてはHPに掲載済みである。

2) 特別研究「多様な調理法と家庭料理の伝承」研究委員会

綾部委員長に代わり、名倉理事より資料2及び3に基づき、2025年度大会のポスター発表数は調査16件、実験10件の計26件の予定であり、大会実行委員と特別研究委員長が相談の上、特別企画の会場を設けることを進めていることが報告された。投稿論文の掲載料金の補助申請については、2025年3月末までの投稿論文が対象となり、支援対象論文は3件となった。支援予算は2024年度と2025年度で200,000円ずつであったため、決算が異なってくることが予測できている。2024年度の報告書については、電子報告書作成に向けて、2025年5月末までに各支部に提出を依頼している。実験が継続中であるため2025年度はデジタルデータでの報告を作成し、2026年度に冊子体の作成を考えている。2026年度の報告書作成については第2回以降の理事会において製本予算を検討していただきたい旨説明があった。

(5) 生活科学系コンソーシアムに関する件

広報担当飯田理事より生活科学系コンソーシアムに関する報告があった。生活科学系コンソーシアムでは、5月、9月、12月、3月の4回の会議とそれぞれシンポジウム、博士課程の論文発表会を行っており、3月、12月のシンポジウムでは、「子育てと子どもの育ちを支援する社会を実現するための課題について考える」というテーマで行われ、3月28日の博士課程の論文発表会では十文字学園女子大学の曾矢先生が発表した。来年度も「子育てと子どもの育ちを支援する社会を実現するための課題を考える」テーマを引き継いで実施していくことになっている。5月の総会(5月14日または19日、20日のいずれかの夕方)には会長または会長に準ずる方の出席依頼があることが報告された。

【審議事項】

(1) 新入会員承認の件

真部会長より、回収資料に基づき2025年1月25日から4月25日入会申込者（正会員17名、学生会員10名）について説明があり、確認の上承認された。回収資料のため、各自の責任のもと破棄するように依頼があった。

(2) 2024年度事業報告承認の件

真部会長より、2024年度事業内容の説明を各担当者に依頼し、資料3に基づき阿久澤副会長から庶務関係の説明があった。会員数が1059名で前年比-11人となり、約1%の減少が見られた。

代議員総会を6月2日（日）にオンラインで開催し、年次大会は9月6日、7日に鎌倉女子大学大船キャンパスにおいて対面方式で開催したこと。60周年記念事業として調理科学の百科事典の刊行に向けて、原稿の依頼を行っていることが報告された。また、研究の奨励及び研究業績等の表彰では、学会賞1名、奨励賞1名、功労賞6名の表彰を年次大会で行った。同大会で若手研究者発表奨励賞の投票を行い3名の表彰を行った旨報告された。

企画・広報関係については、年次大会、講演会、研究企画を中心に活動したことが報告された。講演会は6月2日にウェビナーで開催し、古谷彰子氏、柴田圭子氏に講演いただいた旨報告があった。また、これらの広報については他学会団体の協力も得たことが報告された。

続いて、藤井副会長から学会誌を1500部ずつ年6回発行し、論文審査状況、発行状況、学会誌発行後1週間以内にJ-STAGEで公開されたことが報告された。投稿規程と細則が改正され、投稿規程に改廃時の理事会の承認を追記し、細則に利益相反に関する項を追記したことが報告された。

高村副会長から情報管理委員会について報告があった。情報管理委員会はHPの管理において暗号化を完了し、まもなく、リニューアルされたHPを公開できることが報告された。演題登録は例年通り、confitのスタープランを使用、メール・ニュースは18回発行、アドレスの更新を4回行い、転載申請の許諾の判断、著作権関係についても行っていることが報告された。

渉外関係については真部会長から説明があり、日本学術会議協力学術団体として生活科学系コンソーシアムの活動、関連学会等との事業の共催、協賛および情報交換を行ったことが報告された。

阿久澤副会長から研究委員会関係について、災害時のメニュー開発に関する研究員会会議を6月2日に実施し、能登半島地震での炊き出し支援について、和井田結佳子氏、熊谷奈々氏、飯田芳幸氏に報告いただいたこと、2024年大会においては5年ぶりに調理を実施し、100食を提供したこと、発足当時から一緒に活動しているNPOキャンパーから感謝状を頂戴したことが報告された。

真部会長から旧次世代に伝え継ぐ日本の家庭料理研究委員会では、ウェブサイトの更新、総まとめ報告書が4月末に公開されたこと、学会誌57巻2号からクッキングルームに本委員会による研究結果が7報掲載されたことが報告された。

特別研究、多様な調理法と家庭料理の伝承研究委員会からは、調査結果の概要を学会誌57巻2号に掲載し、2022、2023年度の特別研究報告書を7月に発行したことが報告された。また、年次大会にてポスター発表38演題、学会誌に東北北陸支部から1報掲載、中国四国支部から2報投稿中であり、2025年度大会の発表投稿に向けて準備中であることが報告された。

特別委員会関係の刊行委員会から創立40周年記念事業のクックリーサイエンスシリーズの12冊目として4月に「おいしいたまごのはなし 峯木真知子・小泉昌子・設楽弘之共著」を刊行した。今後継続的な刊行を目指し、学会誌58巻1号に刊行委員会からお知らせを出すことが報告された。

50周年記念出版委員会では、農文協の会員制データベース「ルール電子図書館」の「伝え継ぐ 日本の家庭料理」コーナーに、「全集 伝え継ぐ 日本の家庭料理」に掲載した料理を含む各都道府県が選んだ40品目全ての料理と「調理科学の目」「読み方案内」の公開を完了したことが報告された。

以上、事業報告の内容が承認され、総会で報告事項とすることが認められた。

(3) 2024年度貸借対照表承認の件

高村副会長から、資料4に基づき貸借対照表について説明がされた。未収会費が増えていること、固定資産

についてはパソコンの購入により増えていること、正味財産は約126万円増えていることが説明された。

(4) 正味財産増減計算書承認の件及び監査報告

引き続き、高村副会長から正味財産増減計算書について説明があり、正会員費が190,000円減っており、会員増への協力依頼があった。一方、広告費と、投稿数の増加により著者負担金が増えていることの説明がなされた。特記すべきこととして、年次大会の収益が2,278,000円となり昨年と比べて100万円以上増えていることが説明された。事業費では、学会誌刊行費が、ページ数増により約40万円増えたとの説明があった。研究委員会費は未執行であったこと、給与が少し増えていることの説明があり、残額は468,000円の黒字となった旨説明がなされ、承認された。

新井監事より、2024年度監査を平尾監事とともに令和6年4月13日に実施した結果が読み上げられ、重要な点において適正に示していることが報告された。

真部会長から、本件については、総会にて審議事項となることが説明された。

(5) 2025年度学会賞受賞候補者承認の件

阿久澤副会長から、資料7に基づき学会賞候補者の選考経緯について説明がされた。2025年1月25日の第4回理事会において真部会長から2025年学会賞選考委員として委員長の阿久澤、藤井、安藤、大野、杉山、高橋、三宅理事が委嘱されたことを説明し、推薦書締め切りの3月31日までに、学会賞受賞者1名、奨励賞受賞者1名、功労賞受賞者2名の推薦があり、選考委員会を4月21日(月)と22日(火)の2回にわたりzoomによるリモート会議を開催したことが報告された。選考委員による審査結果と選考理由が示され、学会賞1名杉山寿美氏、奨励賞1名中野優子氏、功労賞2名今井悦子氏、福田ひとみ氏の受賞を全員一致で決定したことが報告され、承認された。

真部会長より、本件については本理事会により決定し、総会にて報告することの説明がされた。

(6) 2024年度支部事業報告及び決算案承認の件

真部会長より、資料8に基づき2024年度支部事業報告および資料9支部決算報告について説明があり、承認された。

(7) 2025年度支部事業計画及び予算案承認の件

真部会長より、資料10の2025年度支部事業計画(案)及び資料11の2025年度支部予算について説明があり、承認された。

(8) 2025年度支部交付金配分承認の件

真部会長より、資料12に基づき、2025年度支部交付金計算書についての説明があり、交付金額については資料に提示の計算式で算出されている旨説明があり、承認された。

(9) 2025年度代議員総会及び講演会の件

真部会長より、資料13に基づき、代議員総会及び講演会の開催について6月8日11時からzoomによるオンライン形式にて開催する旨説明があった。出席できない代議員についても電磁的方法で議決権が行使できること、同日開催の講演会について説明がなされ、承認された。

(10) 選挙管理委員会立上げ及び次年度役員候補並びに代議員選出人数承認の件

真部会長より、現在の執行理事及び監事が今年度で2年目となることから、選挙管理規程に従い、会長として選挙管理委員会を立ち上げ、選挙管理委員長に香西みどり元会長を選定したこと、委員を綾部園子前会長、今井悦子元副会長、事務局から早川氏、小林氏が選定されたことが報告された。

引き続き、資料14に基づき支部別代議員並びに理事候補者選出人数表(案)が示され、承認された。

(11) ジュニア会員規程の件

真部会長より、ジュニア会員規定の件として、資料15に基づき、一般社団法人日本調理科学会会員に関する内規の改正案が示され、改正内容として、学会誌がオンライン公開後直ちに閲覧可能になったこと、4月1日時点で満21歳未満の者をジュニア会員として会費の納入を要しないこと、ジュニア会員には冊子体の送付は

しないがJ-stageに公開されたものは猶予期間なく閲覧できることが説明された。さらに、ジュニア会員に関する「申合せ」の新規施行について説明がされ、承認された。「申合せ」については、一部文言の修正を加えることも含めて承認された。本件については、総会にて報告することが確認された。

(12) ジャーナルインパクトファクター対策ワーキンググループ発足の件

真部会長から、学会誌にインパクトファクターを付与する件について、前回の理事会から検討しており、東京農大の棚橋佳子教授に相談した結果、日本調理科学会誌でも付与は不可能ではないということを確認した。ホームページの整備など学会としての努力も必要であることが明らかとなったため、その対策として、ワーキンググループを発足する必要があると判断し、メンバーとして阿久澤副会長、編集委員会担当の藤井副会長、会長委嘱メンバーで構成し、会長委嘱メンバーについてはワーキンググループ発足が承認された後で、会長に一任することが提案され、承認された。

さらに、阿久澤副会長から動向について報告があった。棚橋佳子氏は、ジャーナルインパクトファクターの基礎知識等の著書を執筆され、セミナーの講師としても活躍されている方で農大に嘱託教授として赴任されている。本学会の学会誌をご覧になり、印象として不可能ではないとのことで、今後の作業工程や申請方法を検討することが第一項目になると説明された。それにあたりかなりの作業量があるため会長に相談した結果、今回のワーキンググループ発足に至ったことが説明された。今後の大切なことは学会誌が国際誌としての評価が得られるように、申請に当たっては、日本語論文のタイトル、要約などの英語による追記載やホームページの英語訳などの条件が必要になる。従って、現状の整備項目の抽出が、初めのワーキンググループの作業内容と方針になること、審査は無料であり、一度承認されれば、インパクトファクターが0であっても付与されたという事実になるが、0が続くと削除される場合もあるので、継続した運営と改善努力が必要であることなどを、棚橋先生から承ったことが報告された。申請の準備から承認に至るまでには最低2年間はかかるとのこと。

大阪ガスの宮藤理事から、ホームページ事務委嘱に関して関連会社に得意とするところがあるので相談できる旨申し出があった。

(13) 2025年度大会の件

1) 講演会シンポジウム等

山中東海・北陸支部長より、資料16に基づき2025年度大会に関する説明がされた。日程については、1日目のお昼にランチョンセミナーを実施、その後、事業報告会、学会賞授与式、公開シンポジウム、ポスターセッション、学術交流会の流れであること、シンポジウムは「温故知新～食を支える東海・北陸地方の伝統産業に学ぶ～」がテーマで5名の講演を予定していること、2日目は午前中の後半に学術講演会、お昼にNPOキャンパーの災害時デモ調理の試食、活動報告会、午後は公開教育講演会とポスターセッションという流れになることが説明された。既に了解済みであるが、学術交流会の正会員の会費が1000円増額になること、学生会員は据え置き、ジュニア会員については今後相談することが報告された。

昼食については、ランチョンセミナーにおいてお弁当の無料配布を200名分予定しているため1日目のお弁当の販売は行わないこと、2日目は通常通りお弁当の販売(1300円お茶含む)とキャンパーの試食を考えていること、大会登録後の要旨集は事前の送付はせず、事前の閲覧はホームページ上でプログラムを確認できることが説明され、承認された。

2) 予算

引き続き、山中支部長より資料17に基づき2025年度大会の予算案について説明があり、予算合計額が9,700,000円余りで、昨年度比で-180万円の予算になっている。これは、東海大学から会場を提供していただいたこと、要旨集の事前送付をやめたことにより予算削減ができたことが要因と考えられる。一方、予備費が30万程度と厳しいところではあること、共催・協賛金とか広告の募集についても苦戦しているため、申し込み期間を伸ばして対応していることが説明された。引き続き協賛企業の紹介の依頼があり、既に申し込みのあった企業の一覧を事務局に送ることとなった。

3) 本部招待者

真部会長から資料18に基づき、本部招待者についての説明があり、招待状を事務局から発送することが確

認された。

4) 事業報告会及び学会賞授与式次第(案)

真部会長から資料19に基づき、説明があり、赤字、黄マーカーの箇所および、学会賞等については本理事会で承認された方々を該当箇所に追記することを含め、事業報告会及び学会賞授与式を大会にて行うことが承認された。

(14) 特別研究「多様な調理法と家庭料理の伝承」研究委員会経費扱いの件

真部会長から、研究委員会経費について2件の提案があった。1件目として、特別研究「多様な調理法と家庭料理の伝承」に対する予算について、2025年3月末までに本学会誌に投稿された論文の掲載費補助として1件20,000円、計10件分の200,000円を計上していたが、実際は3件であることがわかり、140,000円残ることとなった。一方、2024年度本研究委員会から提出された会計報告書によると本部運営委員会の経費が99,100円の赤字となることが判明したため、2025年度予算にて生じる余剰金にてこの赤字分を補填することが提案された。

2件目として、本研究委員会の2024年度会計報告において実験系の研究費用として近畿支部に94,101円、九州支部に66,751円の残金が生じている。本来、2025年3月末で活動を終了する研究委員会ではあるが、研究目標達成のため、2025年度も継続してこの費用の使用を切望しており、この残金を2025年度も使用することを認めることが提案された。以上の2点の提案について承認された。

実験グループについても当初から報告書の作成を計画しており、2024年度の第3回の理事会でも報告があり、この報告書の作成費用については2025年度中に見積もり等を精査し、改めて2026年度予算として本理事会に諮る予定であることが説明された。

(15) 2026年度大会の件

村上近畿支部長より、2026年度大会についての説明があった。1月の理事会において開催場所が同志社女子大学今出川キャンパスであること、開催日程は2026年9月1日(火)から2日(水)であることが既に認められていた。その後の補足説明として、平日開催となった理由として、8月29日から30日は日本食品科学工学会の開催があること、9月5日から6日は京都市内での大規模イベントの開催が検討されていることが判明し、平日開催となったことが説明された。実行委員会については近日中に立ち上げる予定であり、テーマの検討及び科研費への応募を計画中であることが説明され、承認された。

(16) その他

真部会長から、その他として役員名簿が4月更新版であり、数名の先生の変更があることが説明された。次回の開催については2025年8月25日月曜日13時からオンライン開催を予定していることが説明された。

議事録署名人

会長 真部 真里子

筆頭副会長 阿久澤 さゆり

監事 新井 映子

監事 平尾 和子